

めぐみイエス・キリスト教会

2024年9月8日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第722号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時~11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時~(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌236「あだに世をば過ごし」 p. 358

【交読文】 No.46 詩篇第148篇 p. 915

【賛美Ⅱ】 新聖歌468「やがて天にて」 p. 754

【使徒信条・主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「アバ・父よ」

【聖書朗読】 ルカの福音書6章37節～38節(新約p. 122下段)

【礼拝説教】 《さばいてはいけません》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄与」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書6章37節～38節)

6:37「さばいてはいけません。そうすれば、あなたがたもさばかれません。人を不義に定めてはいけません。そうすれば、あなたがたも不義に定められません。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦されます。」

6:38 与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前良く量って懐に入れてもらえます。あなたがたが量るその秤で、あなたがたも量り返してもらえるからです。」

●ポイント1.「さばいてはいけません」とは？

※マタイの福音書7章1節～2節「山上の垂訓から」(新約p.11下段)

7:1「さばいてはいけません。自分がさばかれないためです。

7:2 あなたがたは、自分がさばく、そのさばきでさばかれ、自分が量るその秤で量り与えられるのです。」

※ヨハネの福音書5章22節「パリサイ人への言葉」(新約p.186上段)

5:22「また、父はだれをもさばかず、すべてのさばきを子に委ねられました。」

●ポイント2.「赦しなさい」とは？

※エペソ人への手紙4章32節「パウロの勧め」(新約p.389下段)

4:32 互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。

●ポイント3.「与えなさい」とは？

※ルカの福音書10章30節～35節「良きサマリア人」(新約p.136上段)

10:30 イエスは答えられた。「ある人が、エルサレムからエリコへ下って行ったが、強盗に襲われた。強盗たちはその人の着ている物をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。

10:31 たまたま祭司が一人、その道を下って来たが、彼を見ると反対側を通り過ぎて行った。

10:32 同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。

10:33 ところが、旅をしていた一人のサマリア人は、その人のところに来ると、見てかわいそうに思った。

10:34 そして近寄って、傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで包帯をし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行って介抱した。

10:35 次の日、彼はデナリ二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。』

◎先週の礼拝メッセージ【いと高き方の子ども】

《「自分を愛してくれる者たちを愛したとしても、自分に良いことをしてくれる者たちに良いことをしたとしても、あなたがたにどんな恵みがあるでしょうか。」と、主イエスは言われます。実は、これは当たり前のことなのです。しかし、近年、それが出来ない人が数多く存在します。なぜなら、人々の愛が冷えて来ているからです。

「罪人たちでも、自分を愛してくれる者たちを愛しています。罪人たちでも同じことをしています。」主が言われる「罪人」とは、この世の人々のことを指しています。パウロは、「不従順の子ら」とも言っています。『あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。』と。これが「罪人」の定義です。

「あなたがたは自分の敵を愛しなさい」と、主は言われます。ところで、「自分の敵」とは誰なのでしょう。パウロは、『私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいる諸々の悪霊に対するものです。』と言っています。

私たちの敵は悪魔と悪霊どもです。そして彼らは、私たちの周りに置かれている人々を用いて、攻撃を仕掛けることが出来るのです。「その人たちを愛しなさい。そうすれば、あなたがたの受ける報いは多く、あなたがたは、いと高き方の子どもになります。」と、主は言われるのです。

私たちは、恵みと哀れみによって救われ、神の子どもとされ、御霊をいただいたのです。パウロは、『神の御霊に導かれる人はみな、神の子どもです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と叫びます。』と証ししています。このお方は、私たちの内に住んでおられます。ゆえに、私たちは紛れもなく「いと高き方の子ども」であるのです。》

お知らせ

※次回は9月15日(日)第三主日礼拝は、午前10時から行ないます。